



第24回 多職種連携研修会（専門職向け）の 開催結果について

＊概要＊

(1) 開催日時 2025年3月8日(土) 14:00～17:00

(2) 会場 町田市役所10階 10-2～10-5会議室

(3) 参加者 72名

(4) テーマ

「現場で活かせ！人生会議（アドバンス・ケア・プランニング）」

＊研修会内容＊

【講義（40分間）】

●テーマ：【現場で活かせ！人生会議（アドバンス・ケア・プランニング）】

●内容：

昨年度の研修会で学んだACPの基本を踏まえたうえで、専門職が各現場でサービス種別や年齢、介護度等の異なる対象者に対してACPを実践する際に必要な知識や留意点、話すべきこと、関係者間の連携方法などについて学ぶ。

●講師：

田野原記念ピースハウス病院 診療部長 医師 羽成 恭子 氏

＊研修会内容＊

【グループワーク（90分間）】

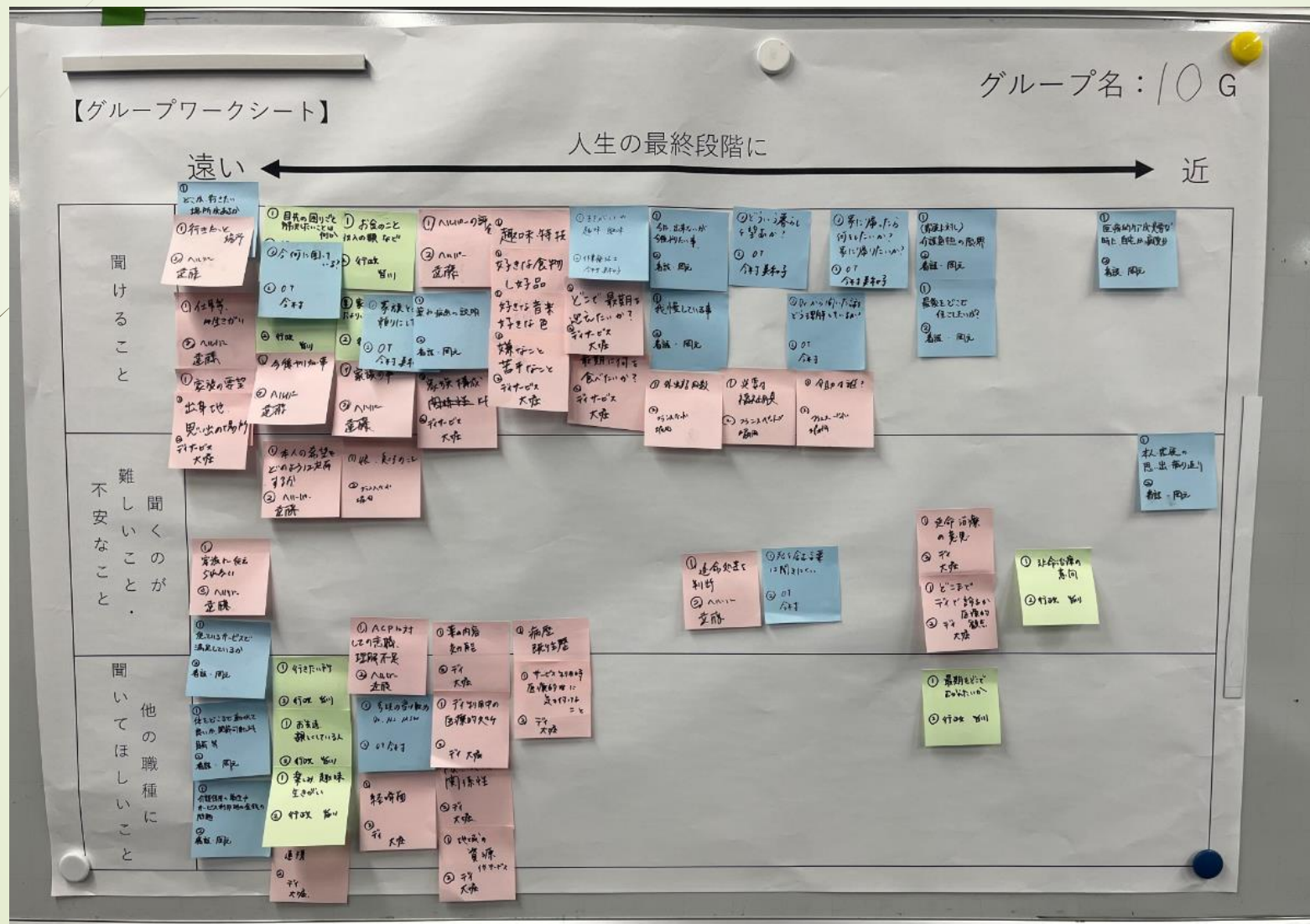
●内容

それぞれの専門職が持っている強みや弱みを見える化するため、自身の職種が「聞けること」「聞くのが難しいこと・不安なこと」「他の職種に聞いてほしいこと」を付箋に書き出し、人生の最終段階にどれだけ近いかを分類するワークを実施。

その後、分類したワークシートを元に、各専門職が担える役割の整理や連携に関する課題について、グループで検討を行った。



* 研修会内容 *





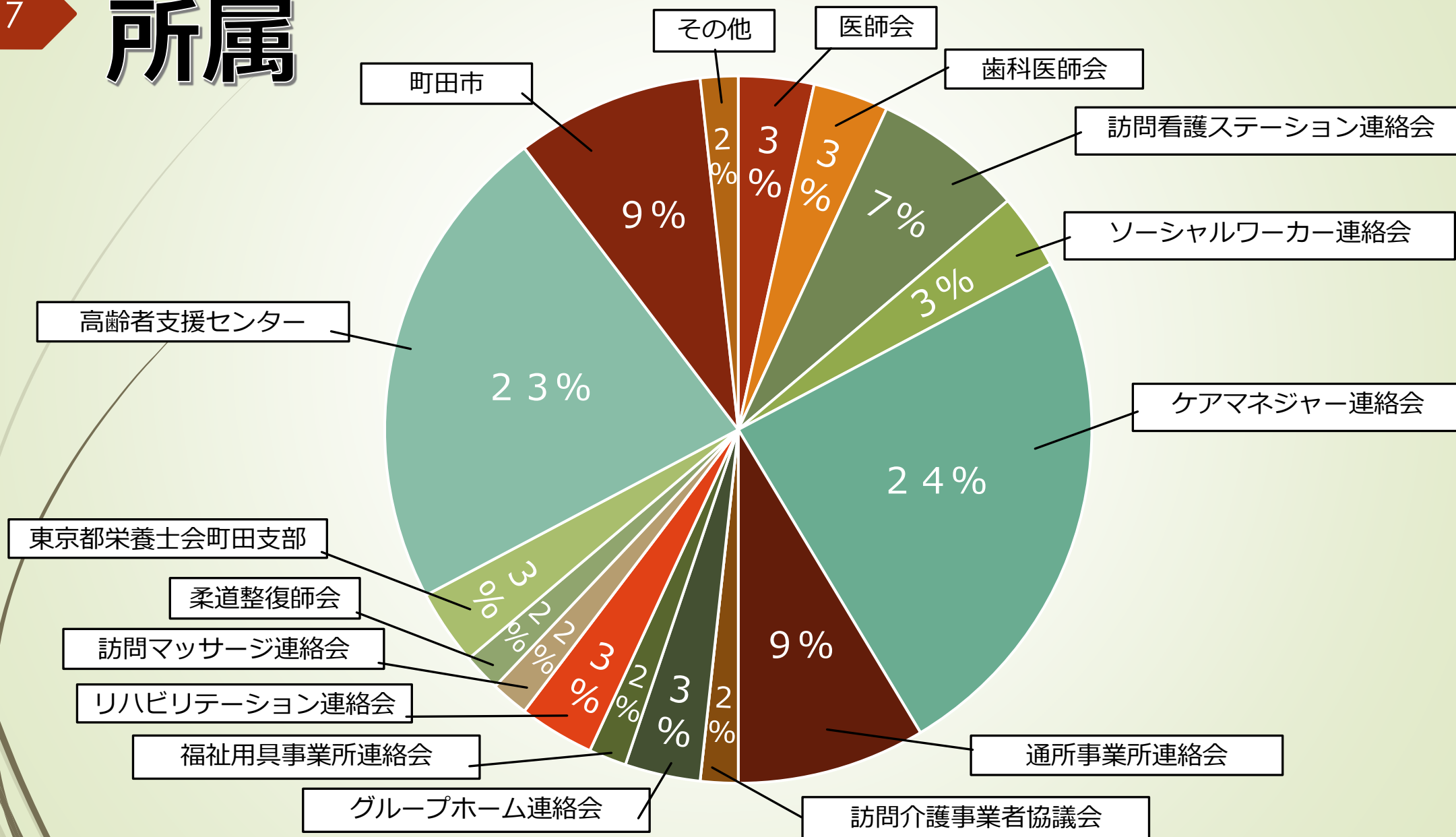
＊当日参加者アンケート集計結果＊

回答49件

* 参加者アンケート集計結果 *

7

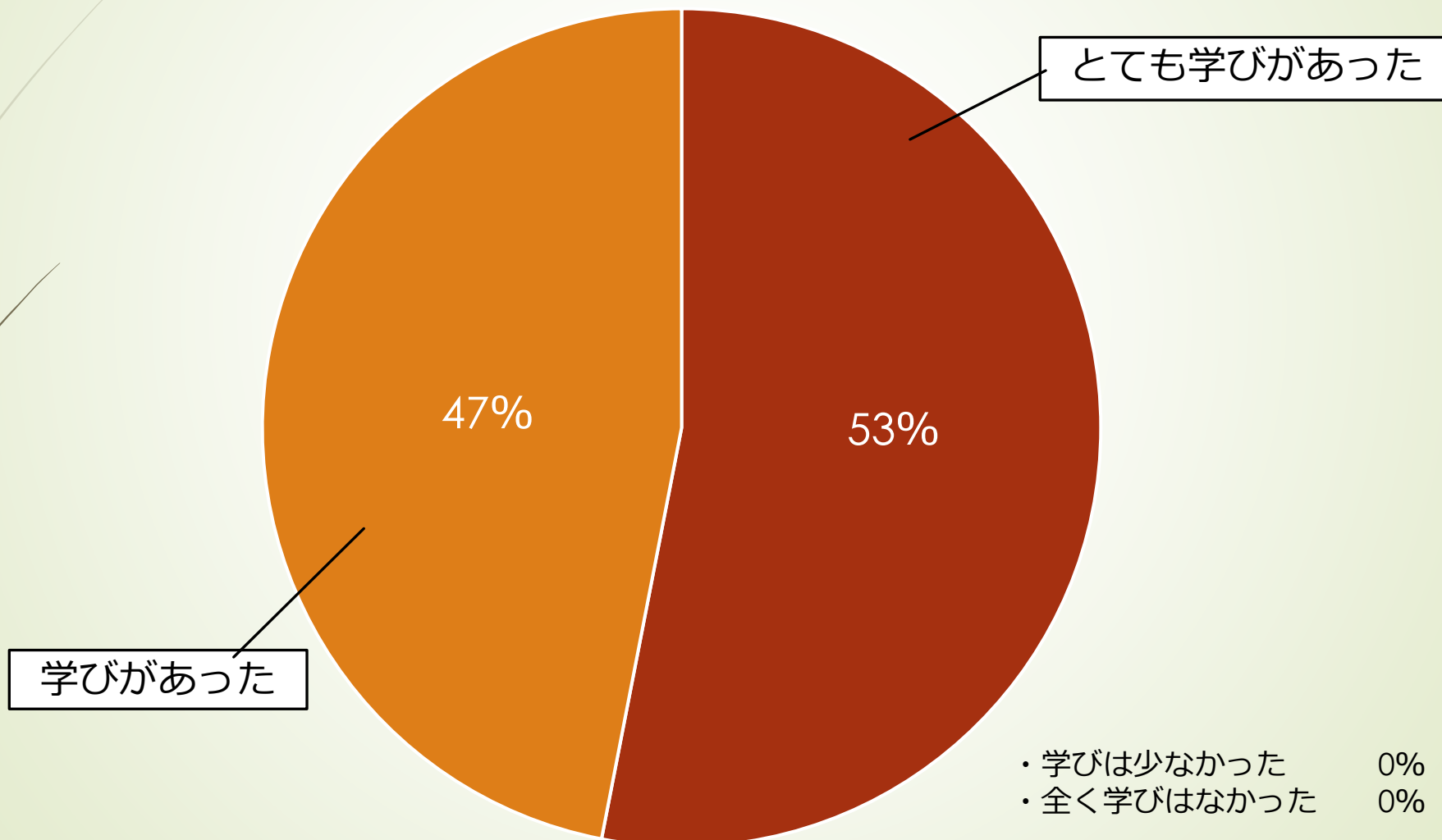
所属



* 参加者アンケート集計結果 *

8

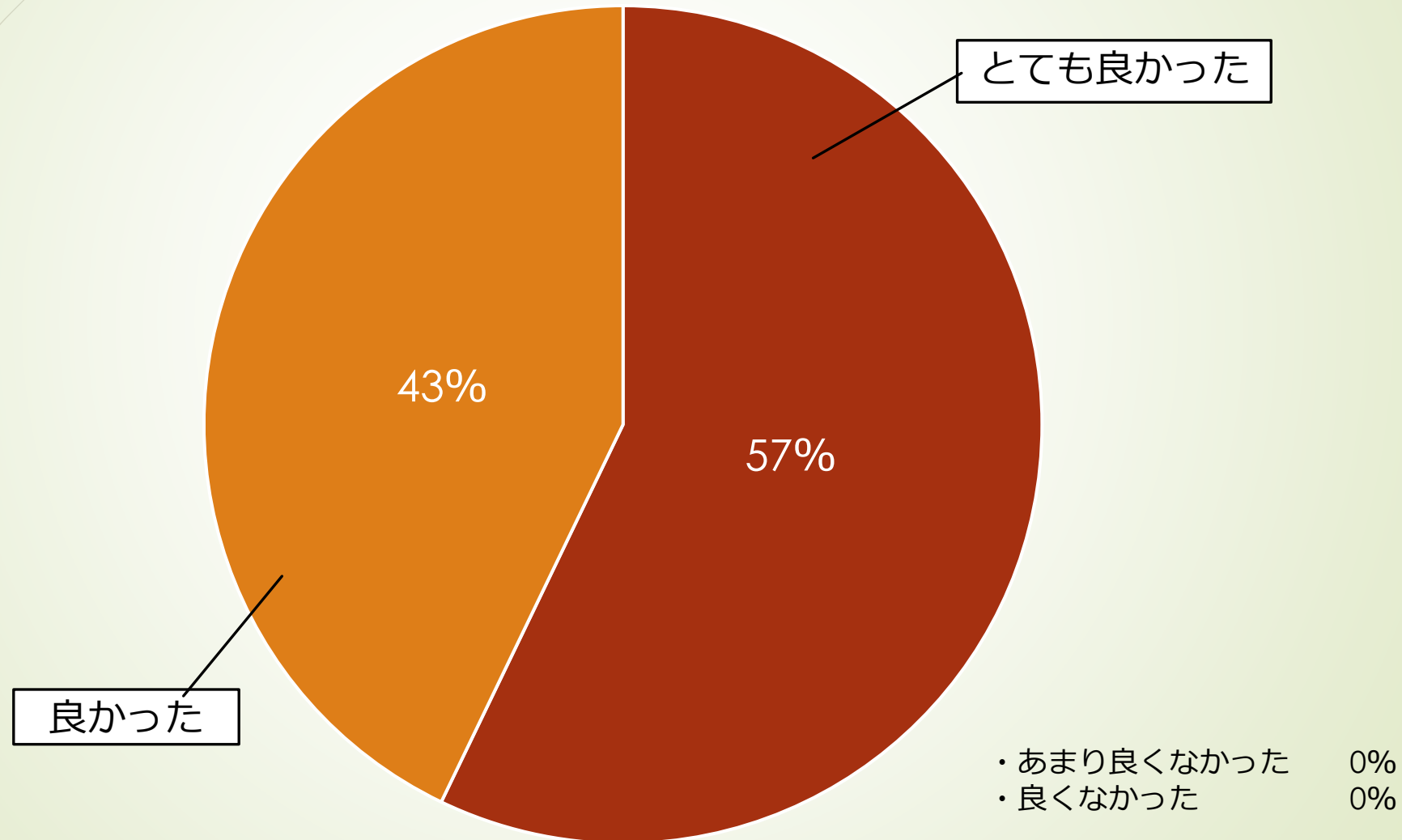
研修会全体について



* 参加者アンケート集計結果 *

9

講演について

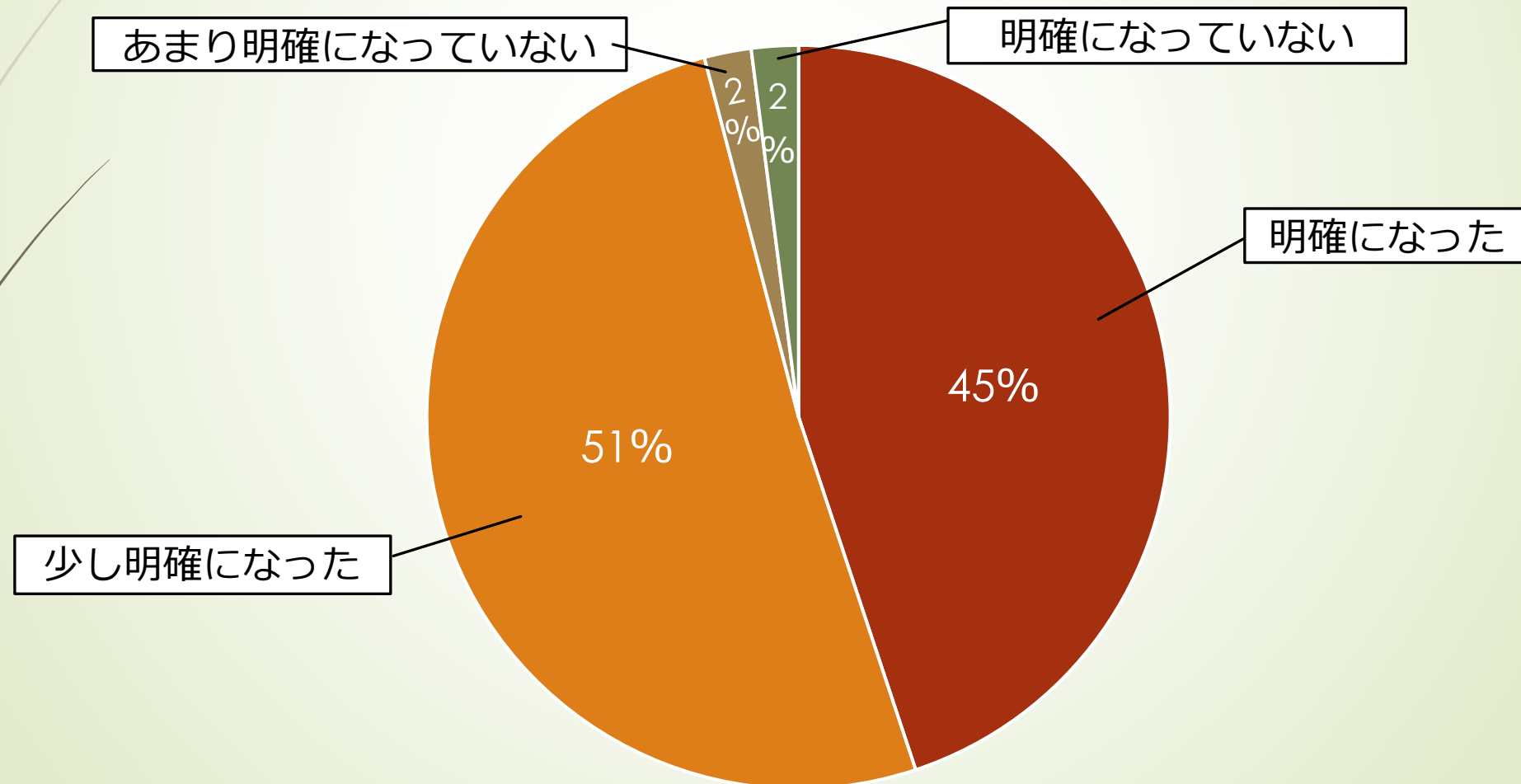


* 参加者アンケート集計結果 *

10

グループワークについて

● 自身の職種ができることが明確になったか



* 参加者アンケート集計結果 *

11

グループワークでの気づき

- これまでACPに関してはケアマネが中心となり本人家族の意向確認を行い、医師とその情報を共有・連携をする認識だったが、今回の研修で「聞くのが難しいこと」などは多職種が連携して各専門職の持つ特色を生かしてケアチーム全体で進めていくことが重要だと気付いた。
- 業種によって聞ける内容が違いため、各職種で連携をとり情報共有することが大切だと思いました。死を迎えることをマイナスととらえず、日常会話・雑談として話せる環境作りができると良いと思いました。
- 職種によってこんなにも差があるのだと気が付いた。出来ないことは出来ないと認識し、他の職種の方に対応していただいた方が良いと割り切れるようになった。
- 自身の職種が聞くことができることは人生の最終段階より遠い時期に多いが、医療面を知っている職種として、医療的側面の聞きたいことの導入部分を最初の段階で確認できる強みがあることが分かった。

* 参加者アンケート集計結果 *

12

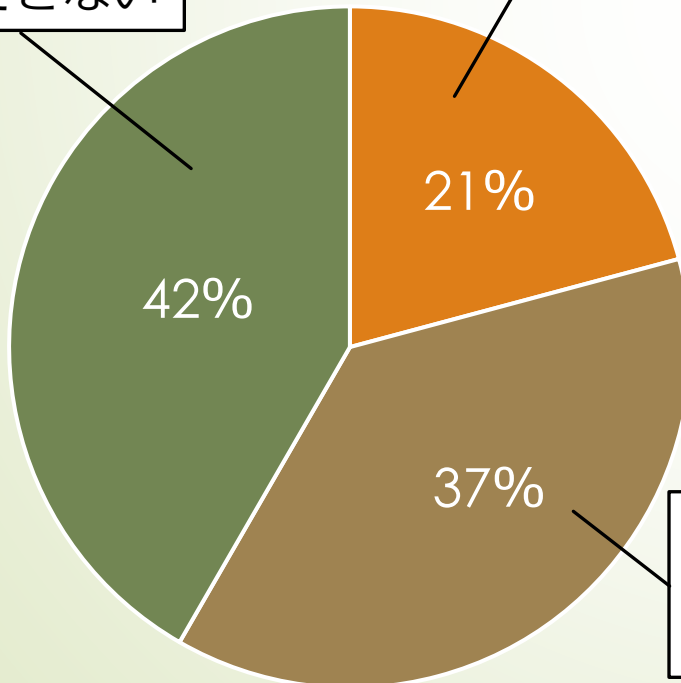
ACPについて

●理解度

【研修後】

定義や内容を理解できているが説明できない

現場で人生会議（ACP）
を実践できる



定義や内容を理解できていて説明
ができる

【研修前】

全く知らない
1%

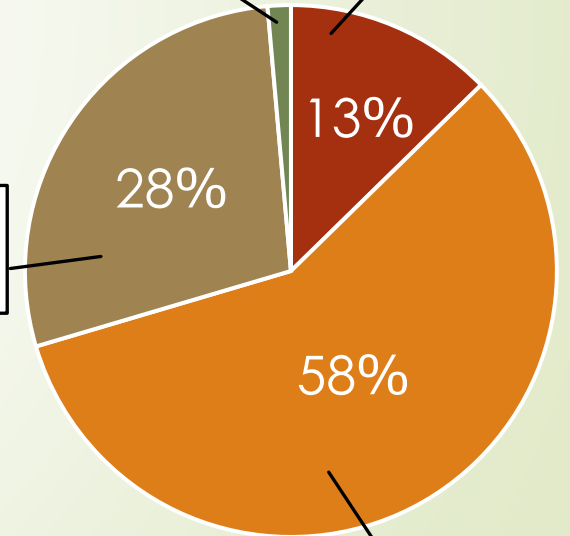
説明ができる

名称のみ
知っている

28%

58%

定義や内容を理解できている

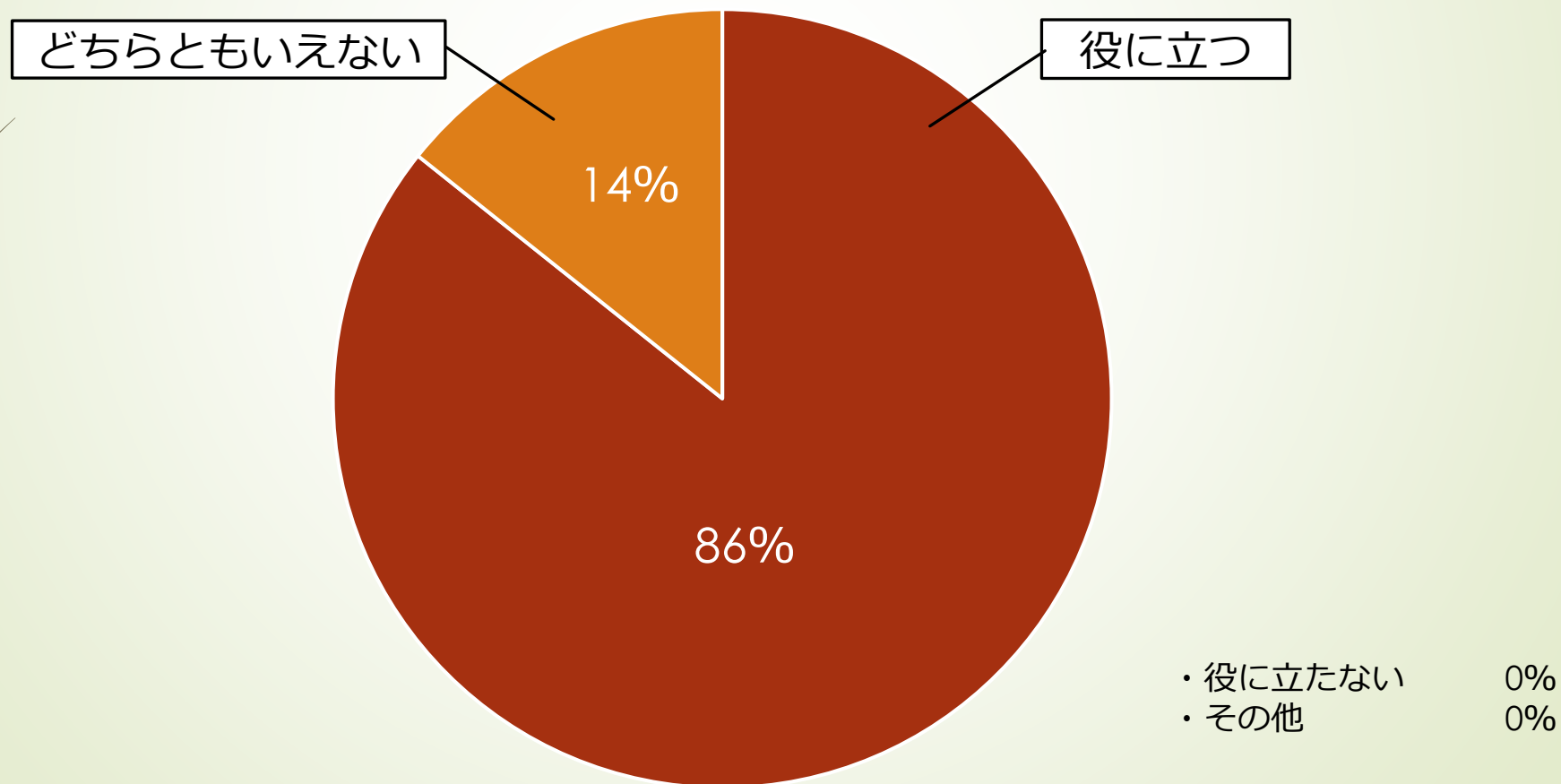


* 参加者アンケート集計結果 *

13

ACPについて

● 自分の専門職が持つ強みが役立つか



* 参加者アンケート集計結果 *

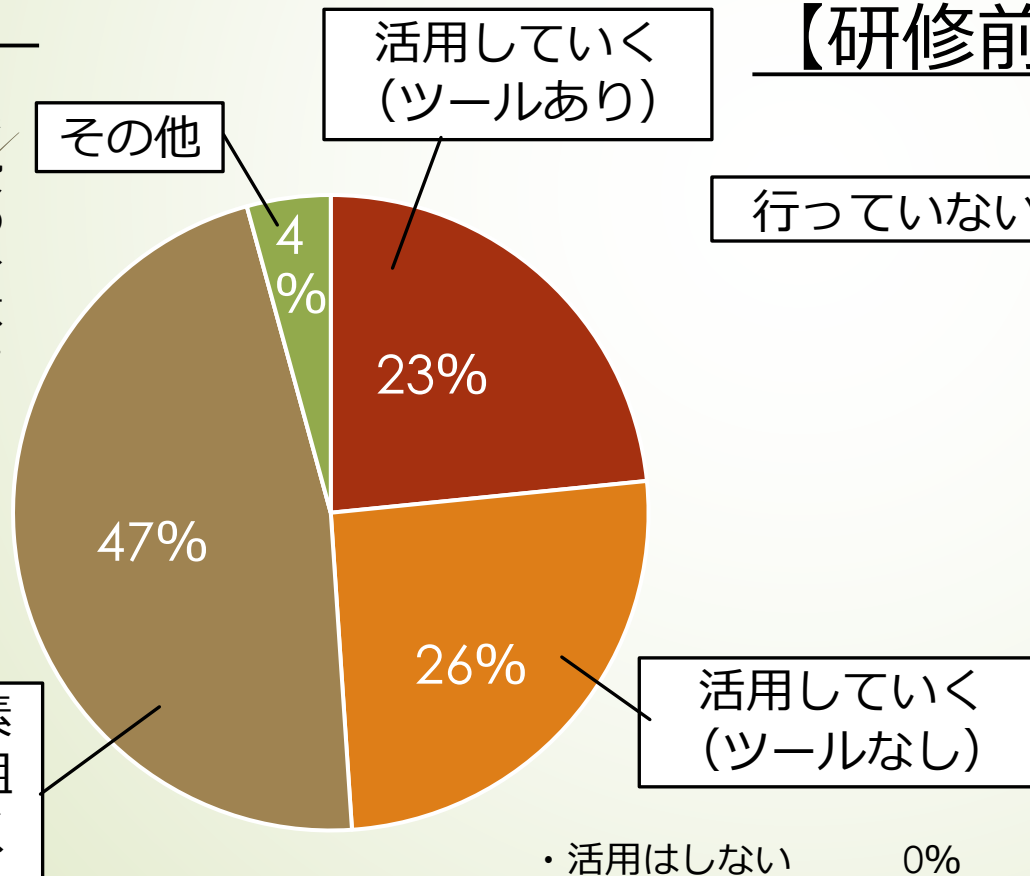
14

ACPについて

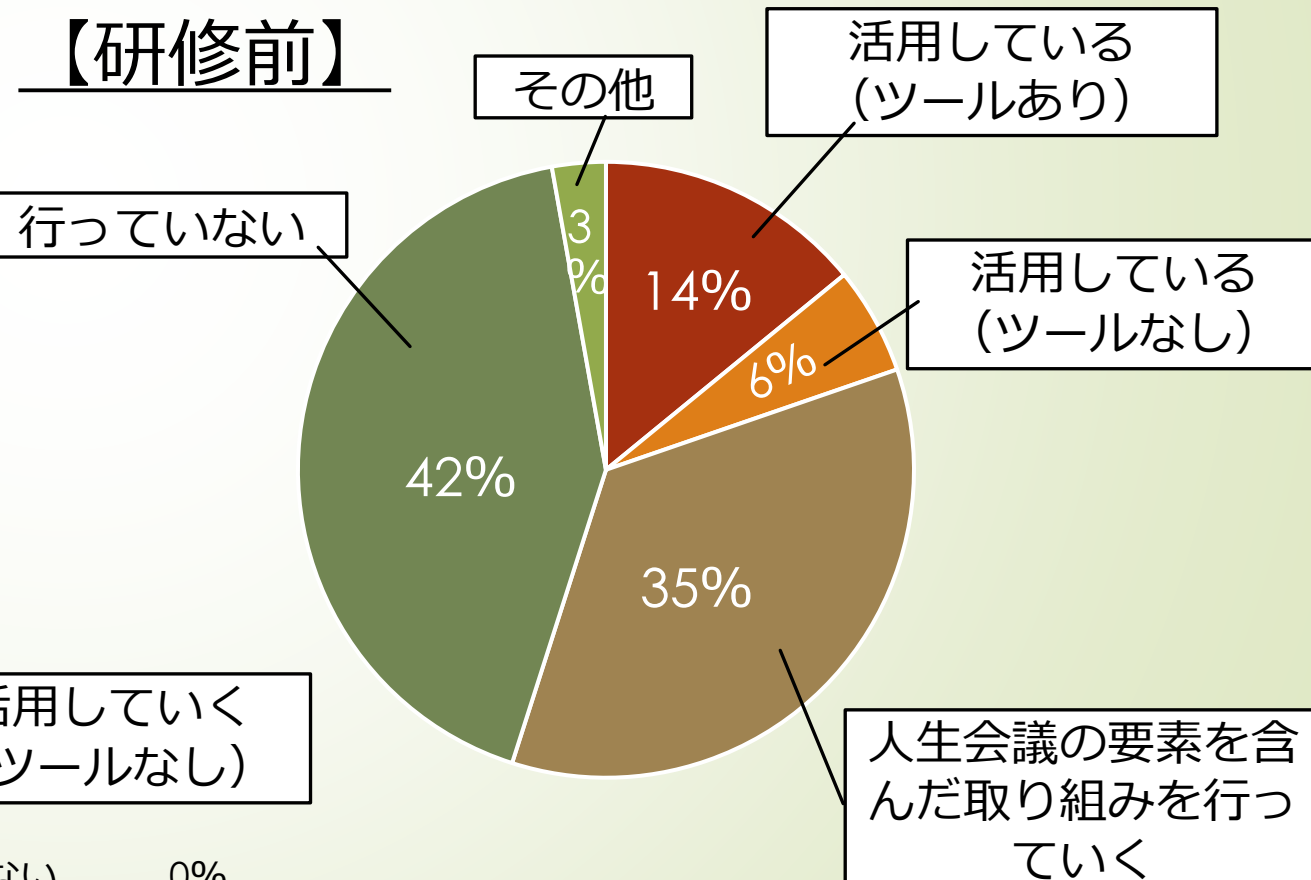
● 現場で今後活用していくか

【研修後】

＜その他＞
・グループホームでは終末期の前に施設移動していただくので、活用できる部分があるかは、未知数だが、活用していきたい。



【研修前】



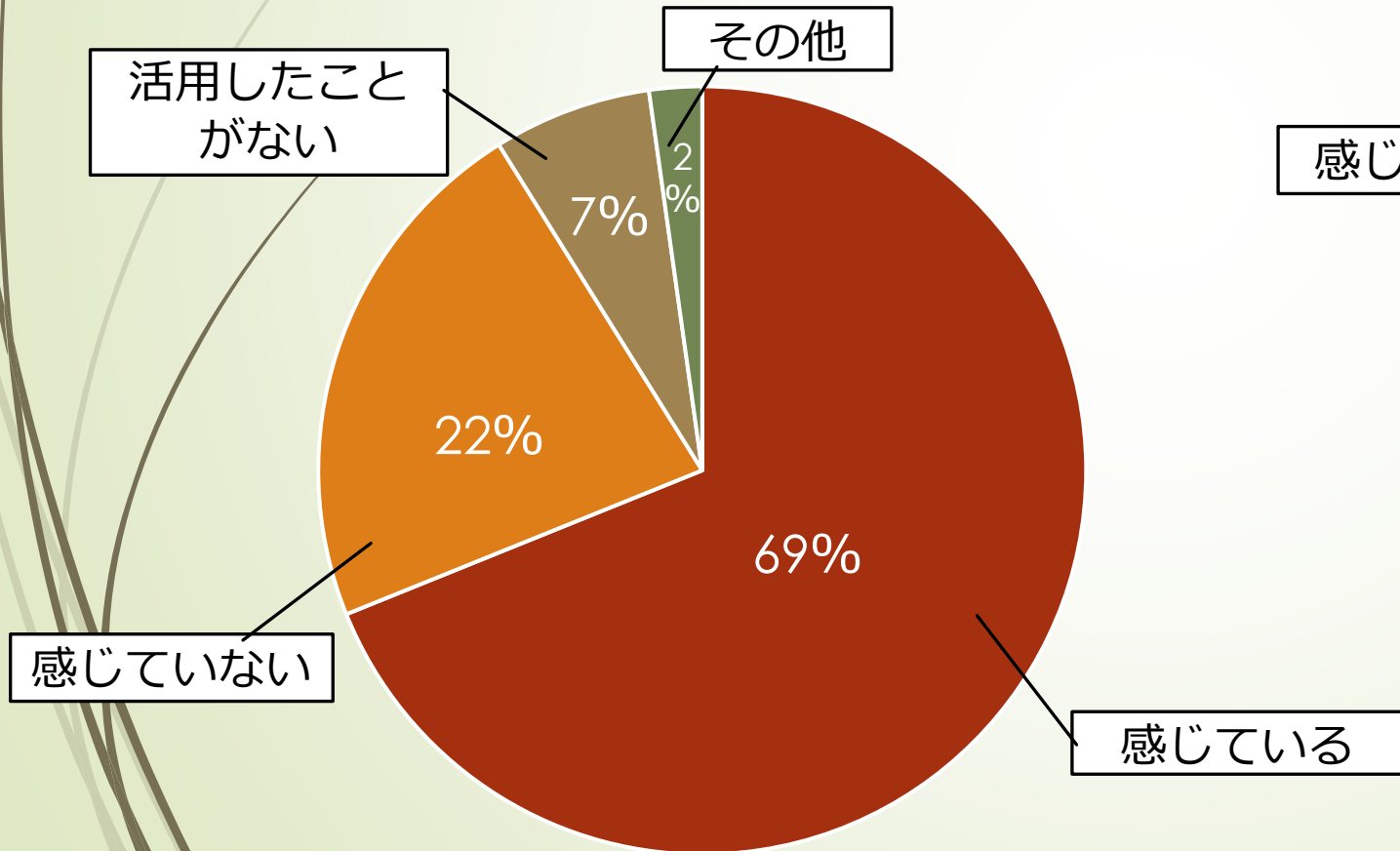
* 参加者アンケート集計結果 *

15

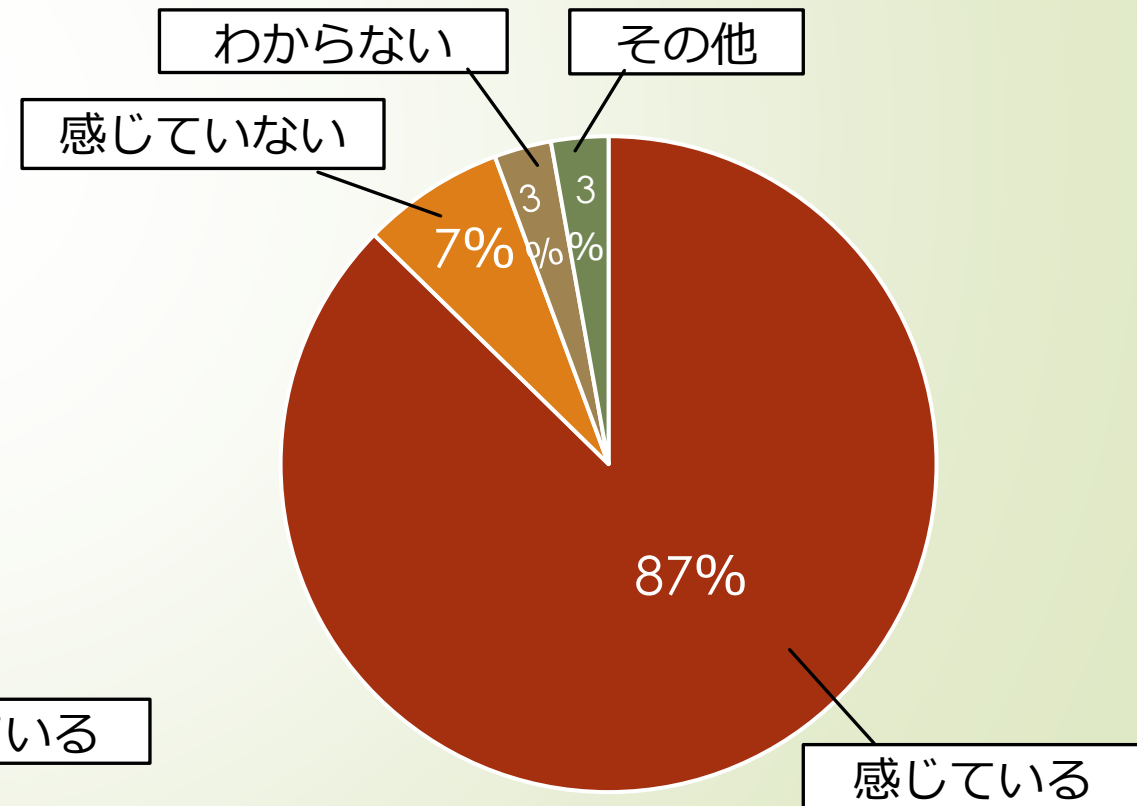
ACPについて

● 活用の難しさ

【研修後】



【研修前】



* 参加者アンケート集計結果 *

16

難しさを感じていること

- ACPをご存じない方が多く、タイミングによっては、聞く方も聞かれる方も負担が大きい。
- 利用者とある程度の関係性が出来てからでないと、死に近い話はしづらい。切り出すタイミングが難しい。
- 時間的課題。単独で実施するには時間が確保しきれない可能性がある。人生会議の効果測定、または評価の難しさ。個別性が高く万人に適用する客観的な評価指標を持ちにくい。
- 明確な答えや線引きがないこと。どの時点の本人の意向を本人の意向とするのか。病院や在宅側など立場の違いで「これを把握しておきたい」と考える内容は違うという前提などまだ疑問はたくさんあります。
- 事前に書面で意思表示をしておくことで、本人の希望が反映された支援が受けられるようになると思われる。しかし、現状市民はその必要性を理解していないのではないかな。

* 参加者アンケート集計結果 *

17

今後ACPを活用するために大切だと感じたこと

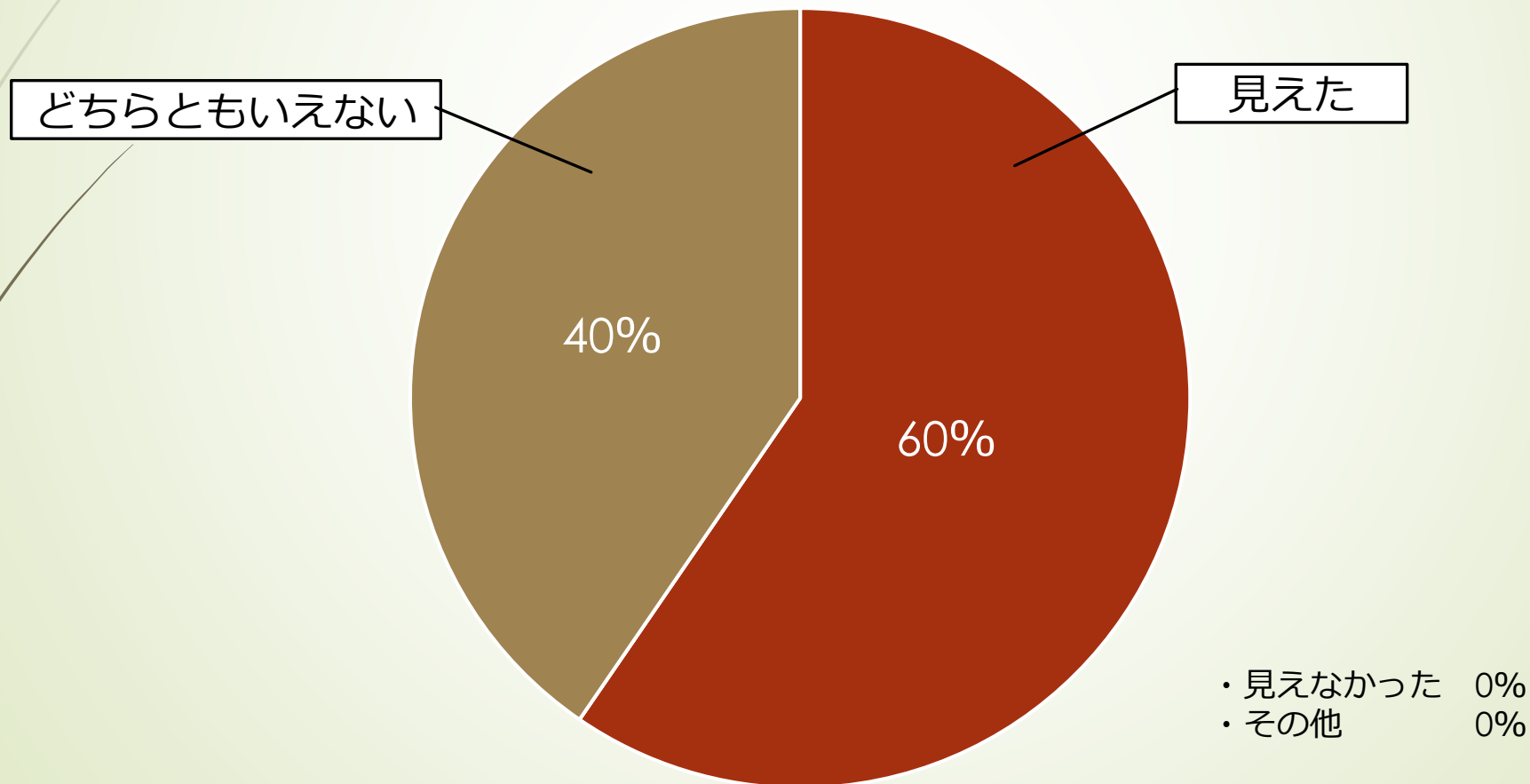
- 高齢者や障害、介護状態の有無にかかわらず、全員が考えることが普通という社会になることが大切だと思う。ACPを考えないのがおかしい社会になるといいと思った。
- 本人の意向を家族や取り巻く支援者、専門職で共有するツールが欲しいと思います。ノートだと、本人が提示しないとみることが出来ないのです。
- ACPと決めこんで活用するのではなく、本人(患者、利用者)に寄り添ったコミュニケーションの中から落とし込んでいけること。
- 支援チームで経過的に少しずつ勧めていくような体制があると、効果的かつ効率的になるのではないかと。
- 情報を提供することで、見えている景色を同じにしていく。そのためには多職種連携が必要である。
- 分かりやすい手法が必要。

* 参加者アンケート集計結果 *

18

ACPについて

● 多職種との連携における課題と対策が見えたか



＊参加者アンケート集計結果＊

19

研修会で得られたこと

- 羽成先生の講義にもあったように、2-3歩先が見えている専門職として、正しい道やタイミングの押し付けにならないように、本人ないし家族の自発性を待てるようにする意識が持てたこと。
- どのような関わりの場面においてもACPの要素は少なからず含まれ、その蓄積が個別性の高いACPになるのだと学びました。これでいいのか、と悩むことも多いですが、ご本人の価値観に寄り添い、関係者と情報をすり合わせながら支援にあたることに、前向きに取り組みたいです。
- 役割分担を明確にし、各専門職が専門分野において力を発揮できるよう、ケアマネジャーがうまく支援チームの形成を促していくことが重要だと思った。
- 日本人には難しいことかもしれないと感じた。
- 一人の利用者(患者)のACPを仕上げるには、今回以上の時間をかけることになると思うと業務調整を頻繁に行うのが難しい。

* まとめ（分析と研修の成果） *

- 理解度 事前⇒事後 アンケート比較
「説明できる」 13%⇒38%、
「理解できている」 58%+「名称のみ知っている」 28%⇒「理解できている」 42%
説明ができる層が飛躍的に増加したことから、研修成果が上々であった。
- 受講者自身の専門性が持つ強みがACPに役立つ：86%、どちらともいえない14%
グループワークを通して、それぞれに行えること、難しいと感じる部分を洗い出して
なお多くの方が現場で生かせるイメージを持てた。
- 現場での活用
「活用する（ツールあり）」 14%⇒23%、「活用する（ツールなし）」 6%⇒26%
「要素を含んだ取り組みをする」 35%⇒47%、「活用していない」 42%⇒0%
総じて得点向上したことから、講義やグループワークにより理解が進んだことが要因
と考えられる。また日頃の取り組みと人生会議の関連が明らかになったことで、意識
的な取り組みが期待できる。
- 活用の難しさ
「感じている」 87%⇒69%、「感じていない」 7%⇒22%
理解の深まりに比例して難しい印象は減少している。一方でまだ多くが難しさを感じ
ているところに取り組む余地があると考えられる。

今後の方向性

- ・理解度の向上
 - ⇒各専門職団体における人生会議の理解の浸透を図る研修の実施
- ・各現場で生かしやすい環境を整える
 - ⇒市民への広報や研修会の実施による理解度の向上
 - 市民が入手しやすく始めやすいツールとネットワークの開発
 - 現場におけるアプローチ手法などの手順書などの整備

以上について、多職種連携研修部会から、2024年度に発足したACP普及啓発部会に主軸を移し取り組んでいく。